



じゃがいもずきん
「ききぼう」くん

中標津町には、「標津川」をはじめ、「タワラマップ川」「ますみ川」「チナナ川」「ケネカ川」「クテクンベツ川」など、たくさんの川があります。中標津町では、川は珍しいものではなく、見慣れた光景で、特別な危険を感じている人は少ないかもしれませんが、川はいつも穏やかなわけではありません。大雨が降った次の日や台風が通り過ぎた後には、川は茶色く濁り、様々なものを押し流すおそろしい一面を見せます。時には、洪水や土石流となって、人家に被害をもたらすこともあります。



夏といえば、夏休み。川釣りやスケッチ、ラフティングやカヌー、リバーブギやキャニオニング…夏ならではの川の楽しみ方はたくさんありますよね。時季的にイベントや趣味、思い出作りなどで、川へ行く人が増えてくると思いますが、ちょっと待って！川へ行く前に、川の危険について知っておきましょう。知識が、あなたを守ります。

中標津町最大の川の災害

1960年3月13日

急激な暖気と大雨、融雪水で標津川が氾濫。中標津中学校が孤立。東一条橋が流失。母子2人死亡。救助の消防団員1人殉職。住家被害は、床上浸水42棟・床下浸水200棟。



流失直前の東一条橋（今はない）。



東3条北3丁目現町立中標津保育園付近は、大海原と化した。

大雨が降った時や増水時には、絶対に川に近づいてはいけません！

大雨が降った時には、決して河原に降りてはいけません！

渓流・河川敷・中州・親水公園などの川のそばにいる時、**積乱雲の近づくサイン**に気がいたら、速やかに安全な場所に避難しましょう。まもなく、激しい雨と雷がやってきます。流されたり、溺れたりする危険がありますので、川や低い場所からすぐに離れましょう。水かさが増え濁ったり、枝などが流れている時は危険です。上流に降った大雨で、急に増水する事があります。

浸水した道路では、側溝が見えずマンホールの蓋が外れている場合もあり危険です。地下を通る道路など低い場所では、通行に注意が必要です。車が水につかると、水圧でドアが開かなくなり危険です。

急な大雨や雷、竜巻から身を守るためには、気象情報をこまめに確認する事が大切です。外出する際には、事前にテレビ・ラジオ・インターネットなどで天気予報と雷注意報を確認しましょう。もし、「雷を伴う」「大気の状態が不安定」「竜巻などの激しい突風」などの

積乱雲が近づいてきているサイン

- ・真っ黒い雲が近づいてきた。
- ・雷の音が聞こえてきた。
- ・急に冷たい風が吹いてきた。



言葉が使われていたら、天気急変に備える必要があります。特に**屋外にいる場合は、気象庁が発表している降水・雷・竜巻の状況を1時間先まで予測した分布図（ナウキャスト）で、こまめにチェックする事**をオススメします。

※ナウキャストは、5分または10分ごとに最新情報に更新されます。



写真：水害レポート2010より

穏やかな小川が急に激しい流れに変わります。



写真提供：国土交通省九州地方整備局

地下に水が流れ込むと逃げられなくなります。

詳しくは、総務課 防災係まで。